



TSUYUKUSA

事務部長就任挨拶

社会福祉法人 北海道社会事業協会小樽病院 事務部長
永井克昭



この度、水野前事務部長の後任として、8 月より事務部長を拝命いたしました永井克昭でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

北海道社会事業協会小樽病院は大正 14 年に開設以来 90 年となる歴史のある病院であり、地域に根ざし皆様に信頼される病院として役割を果たすべく努力して参りました。

社会情勢の変化に伴い医療状況も変化し、国では病院での医療から、住み慣れた自宅や地域での療養や介護へシフトする「地域包括ケア」を推進しています。当院も今年 6 月に「地域包括ケア病棟」を開設いたしました。

この病棟は高度な急性期治療を経て、家庭や地域でよりよく生活ができるよう必要な方に手厚いリハビリテーションを行う病棟であります。小樽・後志地域は高齢化が進んでおります。患者さんとその家族に優しい病棟という思いでスタッフ一同取り組んで参ります。今後地域の皆様にもっともっと利用していただけるようスタッフの充実を図っていく所存です。

これからも地域に根ざした医療を行い、信頼され、選ばれ続ける病院作りを目指し、精一杯努力をして参りますので、何卒ご指導ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

就任のご挨拶

地域医療福祉連携室 室長補佐 福島 洋子



拝啓

北海道各地で立て続く台風により甚大な被害に見舞われて、ようやく被災された方のお元気なニュースに、少々安堵しながらも、心から早期の復興を願っております。

この度、9月1日から嘱託で地域医療福祉連携室の室長補佐として、就任いたしました。

少しだけ、自己紹介をさせていただきます。

北海道大学医学部附属看護学校、助産婦学校を卒業後、助産婦として地域に就職、その後、北海道大学病院に就職し37年余りを看護師・助産師として勤務し、平成26年3月で定年退職いたしました。

就業後半は、北海道大学病院の初代専任リスクマネジャーとして7年間勤務、その後、副看護部長として、入退院センター設置、共通病床の運用とシステム改革、病院機能評価更新等、病院としての事業に携わりました。

今回、平成26年度から構想されておりましたPFM(Patient Flow Management: 入退院のマネジメント)のシステム・体制の構築の任を受け、雇用となりました。小樽協会病院の方針であります「患者サービスの向上」と、「職員の業務軽減」「現機能での最大限の収益拡大」を目標にし、決して新しい取り組みではなく、現在の小樽協会病院の機能を生かし業務の効率を図ることで、システム・体制は整うと感じております。

最後に、甚だ微力ではございますが、皆様のご協力・ご支援をお願いし、来年度からの稼働を目指して参りたいと思います。

つきましては、

何卒、ご指導ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

謹白



小樽協会病院 地域包括ケア病棟のご案内



医長 山崎 亮(やまざき りょう)

昭和 56 年(1981 年)3 月、東京医科大学卒業。
北大第 2 外科、循環器外科および関連病院の外科および
心臓血管外科に勤務。その後、老年医学、また最近はり
ハビリテーション医学の臨床に携わる。

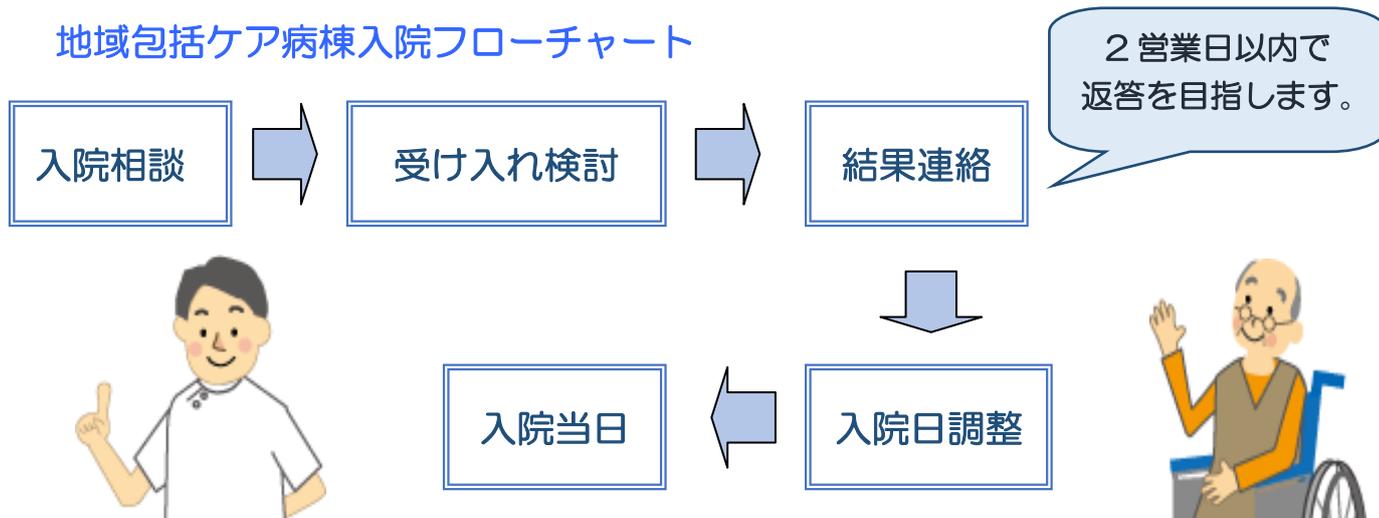
平成 28 年(2016 年)6 月に、地域包括ケア病棟を開設致しました。地域包括ケア病棟とは「急性期治療が終了して病状が安定した患者様に対し、在宅や介護施設への復帰を目標にして、医療や支援を行う病棟」です。具体的には、下記のような疾患・状態の患者様を受け入れて、必要に応じてリハビリを施行致します。

1. 脳卒中で脳神経外科での急性期の治療を受けた患者様
2. 骨折で整形外科での治療(手術をなど)を受けた患者様
3. 肺炎、心不全などの治療が終了した後のいわゆる廃用症候群の患者様

入院期間は、状態に応じて調整致しますが、60 日が限度と定められています。医師、看護師、理学療法士・作業療法士、医療ソーシャルワーカーなど多職種が連携をして、入院中のケアのみでなく、退院支援・退院後のケアなどを総合的にサポート致します。

入院の相談は、当院の地域医療福祉連携室で承ります。お気軽にお問い合わせ下さい。

地域包括ケア病棟入院フローチャート



入院ご相談窓口：地域医療福祉連携室 患者支援センターへお気軽にご連絡ください。

直通 TEL0134-21-5717 FAX0134-21-5718

小樽から発信しよう!

小樽協会病院地域連携シンポ第26回 第3回小樽病診連携カンファレンス

総合司会：長井 和彦

小樽協会病院 循環器科部長

特別公演

アドバンストケアプランニングを 大切にして患者さんの意向を できるだけ反映させる肺癌治療

磯部 宏 先生：KKR札幌医療センター 院長

司会：竹藪 公洋

小樽協会病院 副院長

小樽協会病院からご紹介いただいた患者さんの症例報告

いつも明るく前向きな肺癌の一例
ITCを通じた連携が患者と家族を支えます

高村 一郎：高村内科医院 院長

日時：平成28年10月13日(木)

18:30~20:30

会場：小樽協会病院講堂

対象：医療・介護・福祉関係者

参加費：無料

申込み：不要

☆駐車スペースが限られています
出来るだけ公共の交通機関をご利用下さい。



主催：小樽協会病院

在宅診療連携グループ

終末期医療を考える会

お問い合わせは小樽協会病院 (0134-23-6234)

高村内科医院 (0134-23-8141)

☆ 北海道の在宅医療推進事業の支援を受けています

編集後記

今年の北海道は台風による大きな被害を受けました。ニュース映像で玉ねぎやじゃがいもが水辺に打ち上げられている様子に心痛みました。少し高くても北海道産の野菜を食べたいと思います。(渡辺)

小樽協会病院広報誌“つゆくさ” NO.51

発行：小樽協会病院編集委員会

発行日：平成28年10月

発行人：柿木 滋夫

編集委員長：渡辺 直輝